

(5) 職業別

常用雇用身体障害者について、その従事する職業をみると、各障害ごとに最も従事する割合の高い職業は全般的に事務的職業が多いが、2番目に従事する割合の高い職業としては生産関連の職業が多くみられる。

障害の種類別には、視覚障害者では保健医療の職業（医師、歯科医、獣医を除く）に就く者が69.7%と高い割合を占めている。

表1-5 常用雇用身体障害者の職業

障害種類	職業（第1番目）	%	職業（第2番目）	%
視覚障害	保健医療の職業	69.7	一般事務	6.5
聴言障害	一般事務	15.7	電気機械器具組立・修理の職業	15.0
上肢不自由	一般事務	14.7	自動車運転の職業	6.7
内部障害	一般事務	25.5	自動車運転の職業	7.3
重複障害	一般事務	36.7	その他の専門的、技術的職業	13.8

(6) 勤続年数

常用雇用身体障害者の平均勤続年数は12年であった。これは、一般の常用雇用労働者の平均年数11年6月と比較すると平均6月長くなっている。

男女別には男子が12年2月、女子が11年7月であり一般常用雇用労働者に比べて男女差が小さくなっている。

障害の種類別には視覚障害者が17年2月と最も長く、内部障害者が8年と最も短くなっている。

事業所規模別にみると5～29人規模事業所が14年4月と最も長くなった。